
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO **iDWR**

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2017年第43週
(10月23日～10月29日)

- * 2017年11月1日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「結核の集団感染」も掲載しています。

平成29(2017)年11月2日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2017年43週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		40週	41週	42週	43週	年累計	43週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	75	52	77	49	2,823	352	18,755
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
	鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*3}							
三類	コレラ					2		7
	細菌性赤痢	1				29	1	122
	腸管出血性大腸菌感染症	1	13	6	7	443	93	3,578
	腸チフス					8		33
	パラチフス					6		13
四類	E型肝炎	2			1	50	4	266
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎			4	1	59	6	244
	エキノコックス症					1		22
	黄熱							
	オウム病						1	11
	オムスク出血熱							
	回帰熱	1				2		8
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					1		1
	サル痘							
	ジカウイルス感染症 ^{*4}							3
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*5}						3	86
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							2
	炭疽							
	チクングニア熱					2	1	4
つつが虫病					3	5	122	
デング熱	1		2	2	61	6	220	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*3 2013年より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*4 2016年2月15日より新たに追加指定された。

*5 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		40週	41週	42週	43週	年累計	43週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱					1	12	312
	日本脳炎							1
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ポツリヌス症					1		3
	マラリア	1		1		23		50
	野兔病							
	ライム病					1		18
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽					1		1
	レジオネラ症	5	6	2	4	131	54	1,475
レプトスピラ症		1	1		8	1	39	
ロッキー山紅斑熱								
2017/11/1集計								

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 49件 患者 32件(肺結核 24件、その他の結核 7件、肺結核及びその他の結核 1件)、無症状病原体保有者 15件、疑似症 2件、年齢は5歳未満 1件、20代 5件、30代 6件、40代 6件、50代 9件、60代 4件、70代 9件、80代 5件、90歳以上 4件、推定感染地は国内 44件、中国 1件、ネパール 1件、不明 3件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 7件 患者 4件、無症状病原体保有者 3件、血清型・毒素型はO103 VT1 1件、O157 VT1・VT2 2件、O157 VT2 2件、O血清型不明VT1 2件、年齢は10代 2件、20代 2件、30代 2件、50代 1件、推定感染地は国内 6件、キューバ又はカナダ 1件、推定感染経路は経口感染 1件、不明 6件であった。

〈四類感染症〉

E型肝炎 1件 患者、年齢は50代、推定感染地は国内又は大韓民国又はアメリカ、推定感染経路は経口感染又は動物・蚊・昆虫からの感染であった。

A型肝炎 1件 患者、年齢は80代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染であった。

デング熱 2件 患者 2件、病型はデング熱 2件、年齢は30代 1件、70代 1件、推定感染地はインド 1件、スリランカ 1件であった。

レジオネラ症 4件 病型は肺炎型 3件、ポンティアック型 1件、年齢は50代 1件、70代 2件、80代 1件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は水系感染 2件(温泉 1件、不明 1件)、不明 2件であった。

※ 第42週該当分として〔四類〕A型肝炎 2件の追加報告があった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2017年43週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		40週	41週	42週	43週	年累計	43週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	10	5	4	6	177	16	889
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	1	1		2	52	3	240
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5	7	8	7	183	37	1,373
	急性脳炎 *1	2	1			59	4	562
	クリプトスポリジウム症				1	2		12
	クロイツフェルト・ヤコブ病				1	14	3	166
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1		2	1	60	2	448
	後天性免疫不全症候群	5	9	13	10	391	13	1,147
	ジアルジア症					22	1	48
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3				44	3	295
	侵襲性髄膜炎菌感染症		1			3		23
	侵襲性肺炎球菌感染症	5	5	7	3	329	23	2,571
	水痘(入院例に限る)	3	3		1	44	3	251
	先天性風しん症候群							
	梅毒	27	26	34	35	1,479	73	4,711
	播種性クリプトコックス症			1	1	13	4	112
	破傷風			1		5	1	107
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					7		65
	風しん		1			21	4	79
麻しん	1				28		188	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	1			1	4		20	

2017/11/1集計

*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、バネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

（全数把握対象疾患のコメント・五類）

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 6件 病型は腸管 5件、腸管及び腸管外 1件、年齢は20代 1件、30代 1件、40代 2件、50代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 5件、国内又はマレーシア 1件、推定感染経路は不明 6件であった。

ウイルス性肝炎 2件 B型 2件、年齢は20代 1件、30代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は性的接触(同性間 1件、異性間 1件)、B型肝炎ワクチン接種歴は無し 1件、不明 1件であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 7件 患者 7件、病原菌はエンテロバクター・アエロゲネス 1件、エンテロバクター・クロアカ 3件、肺炎桿菌 3件、年齢は20代 1件、30代 1件、60代 1件、80代 4件、推定感染地は国内 7件、推定感染経路は以前からの保菌 4件、手術部位感染 1件、医療器具関連感染 1件(尿路カテーテル)、不明 1件、90日以内の海外渡航歴は無し6件、不明 1件であった。

クリプトスポリジウム症 1件 患者、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は同性間性的接触であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病 1件 年齢は80代であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 血清群はB群、年齢は40代、推定感染地は国内、推定感染経路は創傷感染であった。

後天性免疫不全症候群 10件 AIDS 2件、無症候キャリア 8件、性別は男性 10件、AIDS患者の年齢は50代 1件、60代 1件、無症候キャリアの年齢は10代 1件、20代 7件、推定感染地は国内 7件、不明 3件、推定感染経路は性的接触 9件(同性間 8件、両性間 1件)、不明 1件であった。

侵襲性肺炎球菌感染症 3件 血清型はすべて検査未実施、年齢は40代 1件、70代 2件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 3件、肺炎球菌ワクチン接種歴は無し 3件であった。

水痘(入院例) 1件 臨床診断例、年齢は40代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、水痘ワクチン接種歴は不明であった。

梅毒 35件 患者 21件(早期顕症梅毒Ⅰ期 9件、早期顕症梅毒Ⅱ期 12件)、無症候梅毒 14件、性別は男性 24件、女性 11件、年齢は10代 1件、20代 11件、30代 6件、40代 2件、50代 9件、60代 4件、70代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 34件、タイ 1件、推定感染経路は性的接触 33件(同性間 3件、異性間 27件、性別不明 3件)、不明 2件であった。

播種性クリプトコックス症 1件 患者、年齢は80代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

薬剤耐性アシネトバクター感染症 1件 患者、年齢は60代、推定感染地は国内、推定感染経路は医療器具関連感染(人工呼吸器)、90日以内の海外渡航歴は無しであった。

※ 第39週該当分として〔五類〕後天性免疫不全症候群 1件、梅毒 1件の追加報告があった。

※ 第42週該当分として〔五類〕劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件、梅毒 3件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2017年43週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2017年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		40週	41週	42週	43週		
小児科	RSウイルス感染症	279	197	132	131	261	264
		1.06	0.75	0.50	0.50		
	咽頭結膜熱	87	100	89	124		
		0.33	0.38	0.34	0.48		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	463	393	524	648		
		1.77	1.50	1.99	2.48		
	感染性胃腸炎	895	755	1,015	1,058		
		3.42	2.88	3.86	4.05		
	水痘	46	69	100	85		
		0.18	0.26	0.38	0.33		
	手足口病	872	656	623	697		
		3.33	2.50	2.37	2.67		
	伝染性紅斑	11	21	16	21		
		0.04	0.08	0.06	0.08		
突発性発しん	126	127	119	121			
	0.48	0.48	0.45	0.46			
百日咳	1	3	3	2			
	0.00	0.01	0.01	0.01			
ヘルパンギーナ	198	105	146	119			
	0.76	0.40	0.56	0.46			
流行性耳下腺炎	41	37	52	40			
	0.16	0.14	0.20	0.15			
川崎病 ^{*1}	4	8	4	3			
	0.02	0.03	0.02	0.01			
不明発しん症 ^{*1}	32	28	27	33			
	0.12	0.11	0.10	0.13			
インフル エンザ	インフルエンザ ^{*2}	56	68	99	142	415	419
		0.14	0.16	0.24	0.34		
眼科	急性出血性結膜炎					39	39
	流行性角結膜炎	19	18	22	28		
		0.50	0.46	0.56	0.72		
基幹	細菌性髄膜炎 ^{*3}	2		2	1	25	25
		0.08		0.08	0.04		
	無菌性髄膜炎		1	1	1		
			0.04	0.04	0.04		
	マイコプラズマ肺炎	1	9	7	6		
		0.04	0.36	0.28	0.24		
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	2						
	0.08						
感染性胃腸炎(ロタウイルス) ^{*4}							
インフルエンザ入院							

2017/11/1集計

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ 手足口病の定点報告数はほぼ例年並みのレベルに減少していますが、一部で報告数の高い地域があります。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2017年43週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	19			3	1	4				1	
6～11か月	22	4		59	2	39	1	43		15	2
1歳	43	21	22	161	5	209	3	65		35	1
2歳	24	20	42	118	1	156	1	12		23	3
3歳	13	21	53	96	5	87	3			14	3
4歳	9	29	84	90	9	75	3	1		7	4
5歳	1	14	103	82	9	44	2			13	7
6歳		5	81	79	12	30				2	8
7歳		5	79	58	11	17	2			1	2
8歳		2	52	45	12	7	1			3	6
9歳			31	41	10	4	3		1		1
10～14歳			62	74	4	13	2			3	3
15～19歳			4	29	2	4					
20～29歳		3	35	123	2	8			1	2	
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	131	124	648	1,058	85	697	21	121	2	119	40
先週比	-1	35	124	43	-15	74	5	2	-1	-27	-12

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月		2	1			1					
6～11か月		8									
1歳		9	7		3						
2歳	1	6	5		2						
3歳	1	3	7					1			
4歳	1	2	18		1			1			
5歳		1	13					1			
6歳			18		1			1			
7歳			11		1						
8歳			7		1						
9歳			4		1						
10～14歳		2	15		1		1				
15～19歳			2		1						
20～29歳			7		1			1			
30～39歳			8		2						
40～49歳			10		6						
50～59歳			6		4						
60～69歳			1		2			1			
70～79歳			2		1						
80歳以上											
合計	3	33	142		28	1	1	6			
先週比	-1	6	43		6	-1		-1			

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数【保健所別】 2017年43週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田	0.33		0.33	0.33	0.33						
中央区		0.33	1.33	12.67		2.00		0.67		0.33	
みなと	0.83	0.17	1.17	3.00	0.17	2.17		0.50		0.50	0.33
新宿区	2.13	0.13	3.00	3.13	0.13	0.88		0.25		0.38	
文京		0.75	1.75	3.75	1.00	1.25		0.50			
台東	0.25	1.00	2.50	3.25	0.25	6.00		0.25		0.50	
墨田区	0.20		0.40	1.60	0.20	1.20		0.60			
江東区	0.44	0.22	2.33	8.56	0.11	2.56	0.11	0.67		1.11	0.22
品川区	0.38	0.13	1.63	4.00	0.25	1.13		0.50		0.38	
目黒区	0.60	0.20	1.80	3.80		2.80	0.20	0.40		0.40	0.20
大田区	0.38	0.46	3.62	6.92	0.23	1.62	0.15	0.23	0.08	0.15	0.23
世田谷	0.44	0.31	4.00	3.44	0.06	2.81	0.06	0.25		1.13	0.06
渋谷区		0.25	0.50	2.25	0.75	2.00		0.50		0.25	
中野区	0.50	0.17	2.17	3.83	0.33	3.33	0.50	1.17		0.33	0.33
杉並	0.27	0.36	0.64	3.09	0.18	1.18	0.36	0.27		0.09	
池袋		0.33	0.67	1.00		0.67		0.33			
北区		0.14	0.43	2.43	0.43	1.29	0.14	0.86		0.29	
荒川区		0.50	2.00	3.25	0.25	1.75		0.25		0.50	0.25
板橋区		0.10	0.90	1.10		1.10		0.50		0.10	0.10
練馬区	0.31	0.54	3.31	1.85	0.08	4.00	0.08	0.62	0.08	0.31	0.92
足立	0.54	0.85	1.38	4.46	0.38	2.62		0.31		0.08	0.15
葛飾区	0.13		1.75	6.00	0.50	5.38		0.88			
江戸川	0.75	0.83	3.42	6.08	0.08	2.33	0.25	0.42		0.83	0.08
八王子市	1.09	0.82	2.55	6.27	0.82	5.82	0.09	0.18		0.55	0.09
町田市	0.25	0.25	3.75	8.63	0.63	3.25		0.38		0.13	0.13
西多摩	0.13		1.63	2.63	0.75	4.00		0.13		0.13	
南多摩	1.67	2.22	3.44	3.44	0.22	2.22		0.67		0.67	0.11
多摩立川	0.43		3.43	1.79	0.64	1.50	0.07	0.36		0.43	0.43
多摩府中	0.60	0.80	2.75	3.85	0.60	2.25	0.10	0.90		0.90	0.05
多摩小平	0.60	0.87	4.80	4.13	0.27	5.93		0.33		0.87	0.13
島しょ			2.00								
東京都	0.50	0.48	2.48	4.05	0.33	2.67	0.08	0.46	0.01	0.46	0.15

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
千代田		0.33	0.25					1.00			
中央区		0.67	0.40		1.00						
みなと			0.11					1.00			
新宿区	0.25							0.50			
文京			0.29								
台東		0.25	1.14								
墨田区											
江東区		0.22	0.29		2.00						
品川区			0.33		2.00						
目黒区			1.13								
大田区	0.08	0.23	0.33		1.00						
世田谷		0.19	0.60		0.50	0.50					
渋谷区					2.00			1.00			
中野区			0.50								
杉並		0.09	0.71								
池袋					3.00			1.00			
北区			0.27								
荒川区			0.29								
板橋区		0.10									
練馬区			0.05								
足立		0.08	1.10		3.00						
葛飾区			0.15		2.00						
江戸川		0.17	0.53		1.50						
八王子市		0.64	0.22								
町田市			0.31								
西多摩			0.14								
南多摩			0.14								
多摩立川		0.14	0.38								
多摩府中		0.05	0.26		0.33		0.33				
多摩小平		0.40	0.17		1.50						
島しょ											
東京都	0.01	0.13	0.34		0.72	0.04	0.04	0.24			

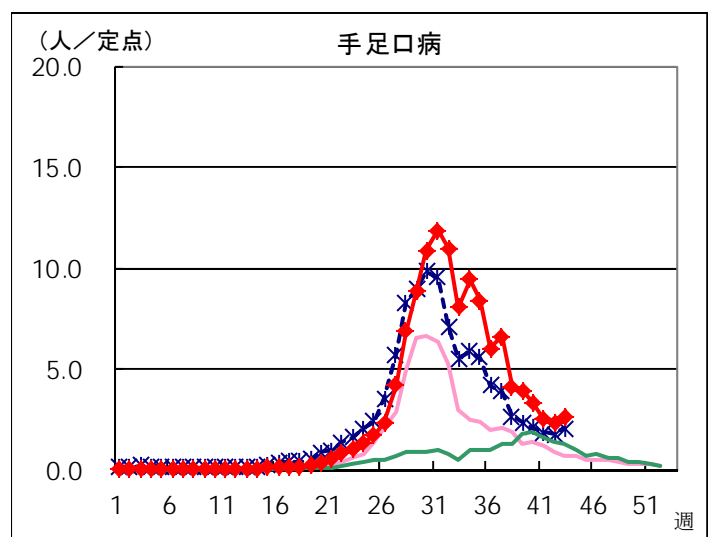
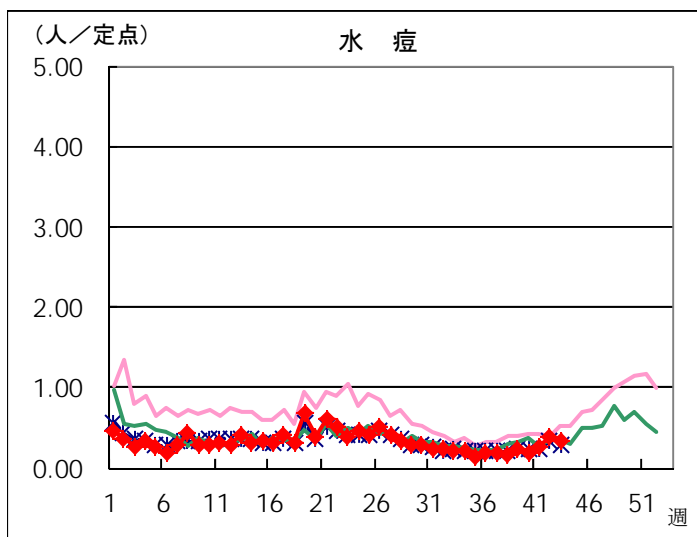
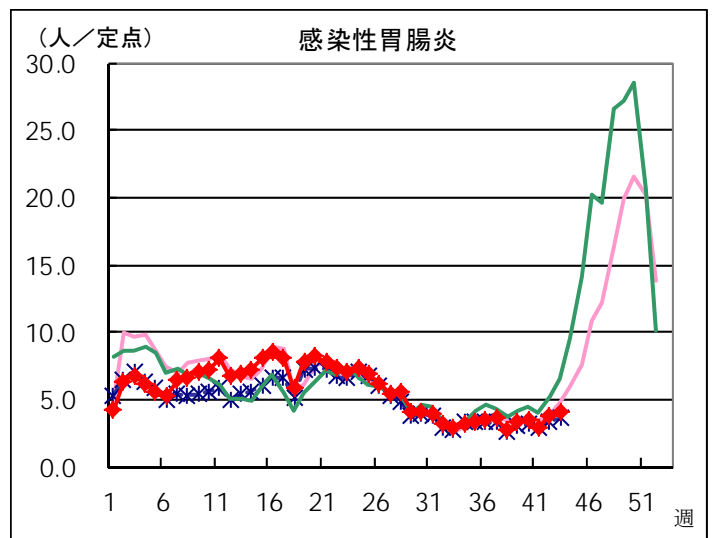
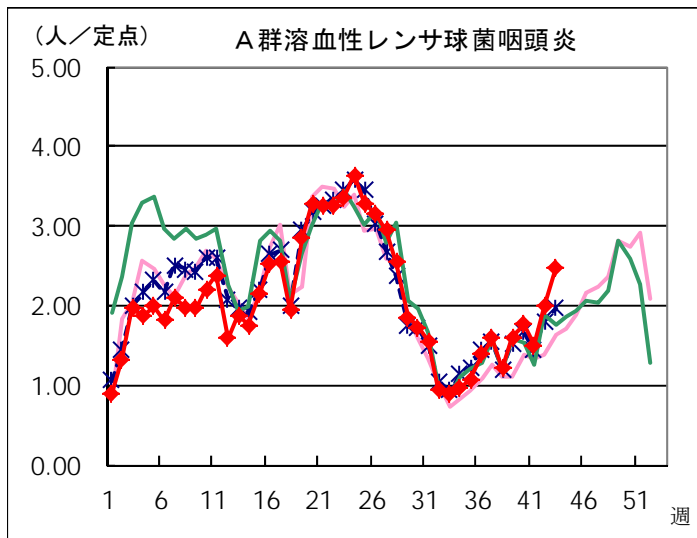
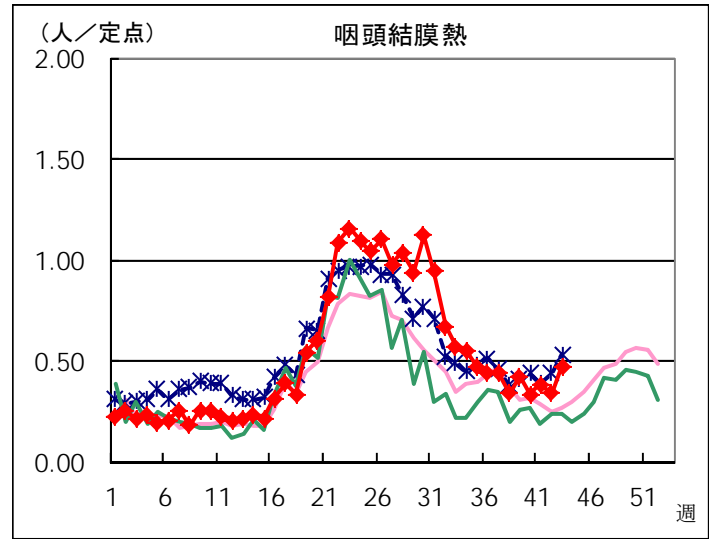
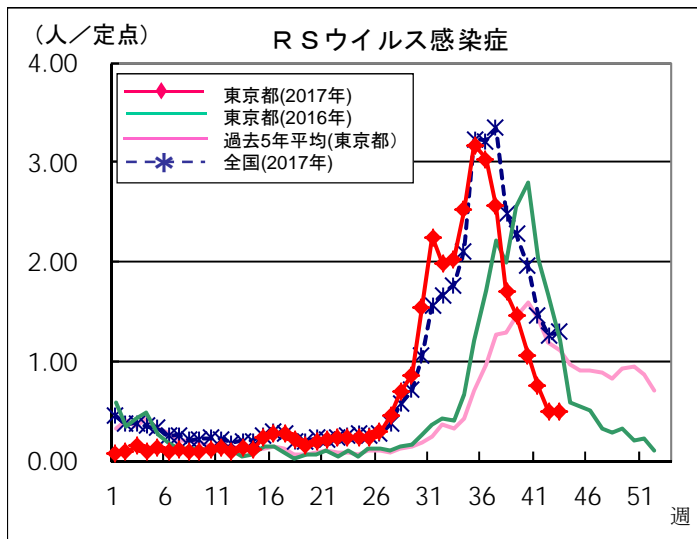
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2017年43週

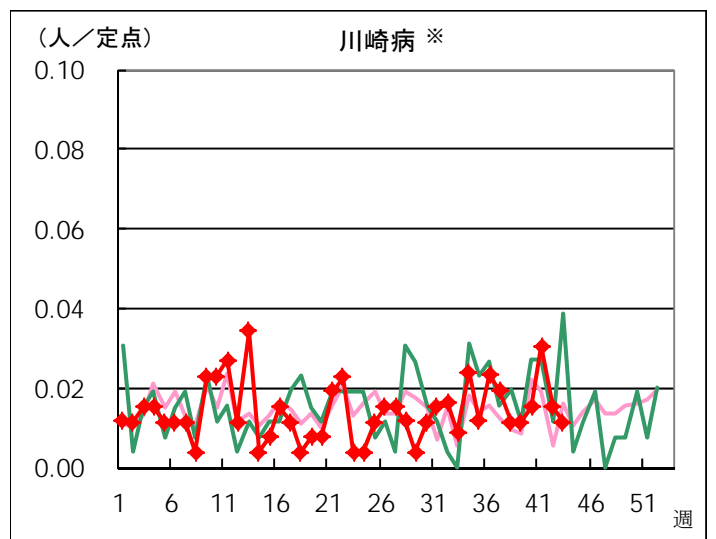
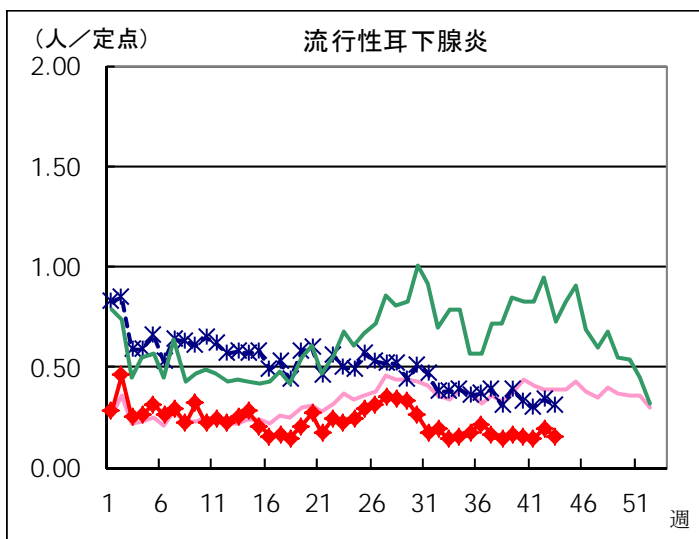
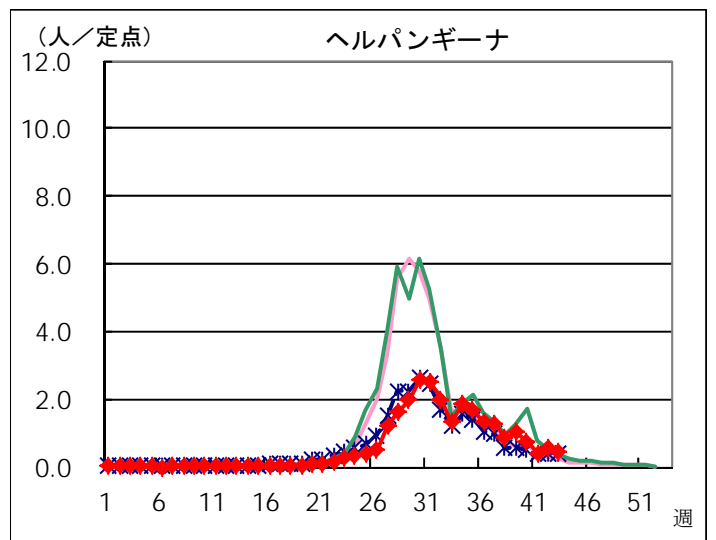
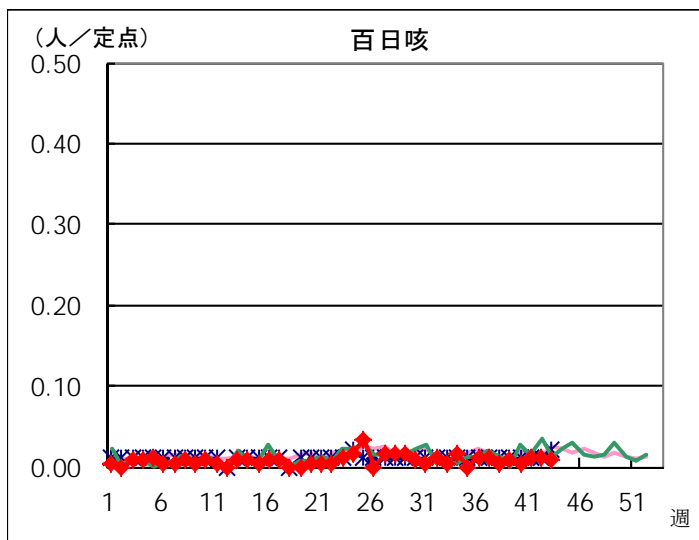
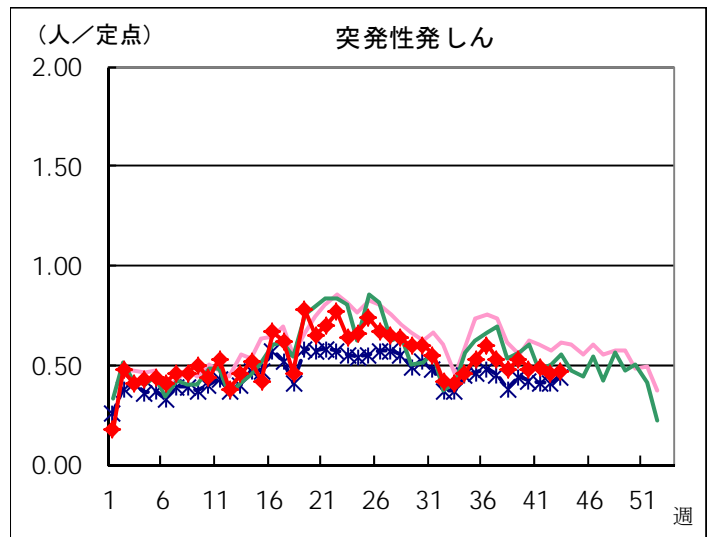
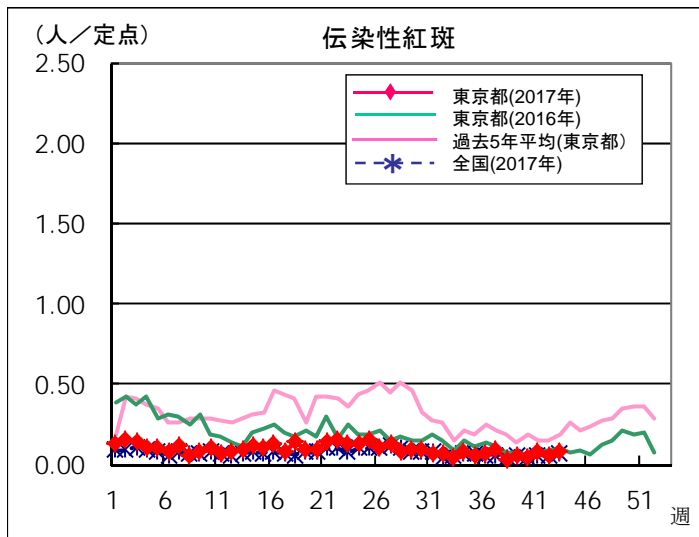
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田	1		1	1	1						
中央区		1	4	38		6		2		1	
みなと	5	1	7	18	1	13		3		3	2
新宿区	17	1	24	25	1	7		2		3	
文京		3	7	15	4	5		2			
台東	1	4	10	13	1	24		1		2	
墨田区	1		2	8	1	6		3			
江東区	4	2	21	77	1	23	1	6		10	2
品川区	3	1	13	32	2	9		4		3	
目黒区	3	1	9	19		14	1	2		2	1
大田区	5	6	47	90	3	21	2	3	1	2	3
世田谷	7	5	64	55	1	45	1	4		18	1
渋谷区		1	2	9	3	8		2		1	
中野区	3	1	13	23	2	20	3	7		2	2
杉並	3	4	7	34	2	13	4	3		1	
池袋		1	2	3		2		1			
北区		1	3	17	3	9	1	6		2	
荒川区		2	8	13	1	7		1		2	1
板橋区		1	9	11		11		5		1	1
練馬区	4	7	43	24	1	52	1	8	1	4	12
足立	7	11	18	58	5	34		4		1	2
葛飾区	1		14	48	4	43		7			
江戸川	9	10	41	73	1	28	3	5		10	1
八王子市	12	9	28	69	9	64	1	2		6	1
町田市	2	2	30	69	5	26		3		1	1
西多摩	1		13	21	6	32		1		1	
南多摩	15	20	31	31	2	20		6		6	1
多摩立川	6		48	25	9	21	1	5		6	6
多摩府中	12	16	55	77	12	45	2	18		18	1
多摩小平	9	13	72	62	4	89		5		13	2
島しょ			2								
東京都合計	131	124	648	1,058	85	697	21	121	2	119	40

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田		1	1					2			
中央区		2	2		1						
みなと			1					1			
新宿区	2							1			
文京			2								
台東		1	8								
墨田区											
江東区		2	4		2						
品川区			4		2						
目黒区			9								
大田区	1	3	7		2						
世田谷		3	15		1	1					
渋谷区					2			1			
中野区			5								
杉並		1	12								
池袋					3			1			
北区			3								
荒川区			2								
板橋区		1									
練馬区			1								
足立		1	22		6						
葛飾区			2		2						
江戸川		2	10		3						
八王子市		7	4								
町田市			4								
西多摩			2								
南多摩			2								
多摩立川		2	8								
多摩府中		1	8		1		1				
多摩小平		6	4		3						
島しょ											
東京都合計	3	33	142		28	1	1	6			

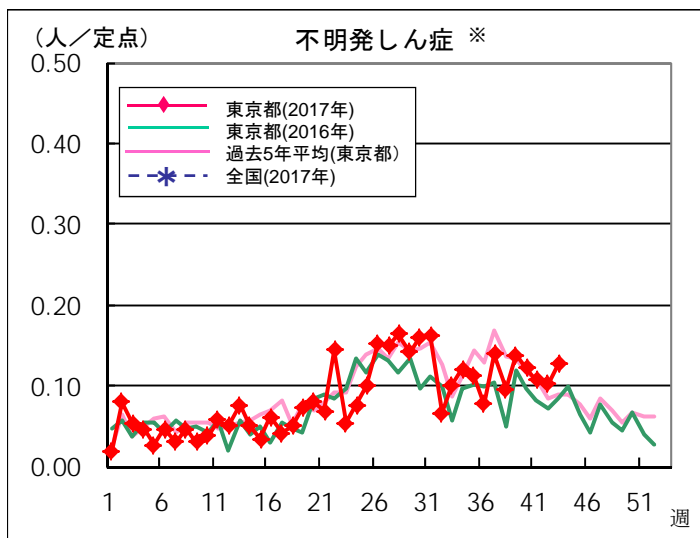
定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2017年43週 現在)

◆ 小児科定点



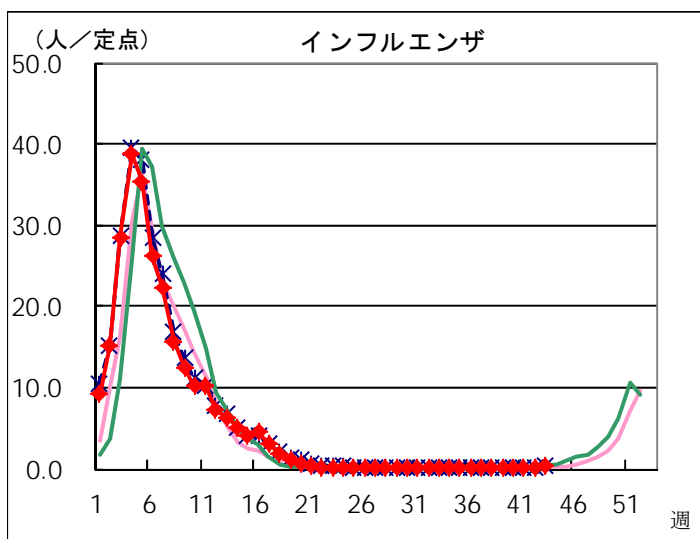


※ 東京都独自対象疾患

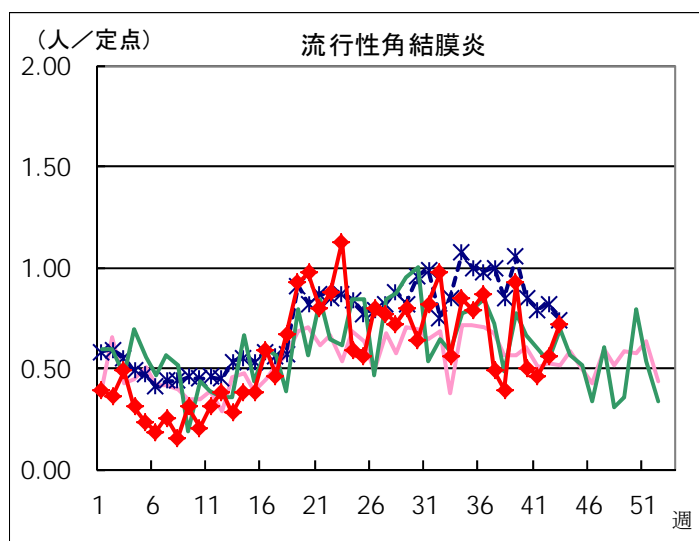
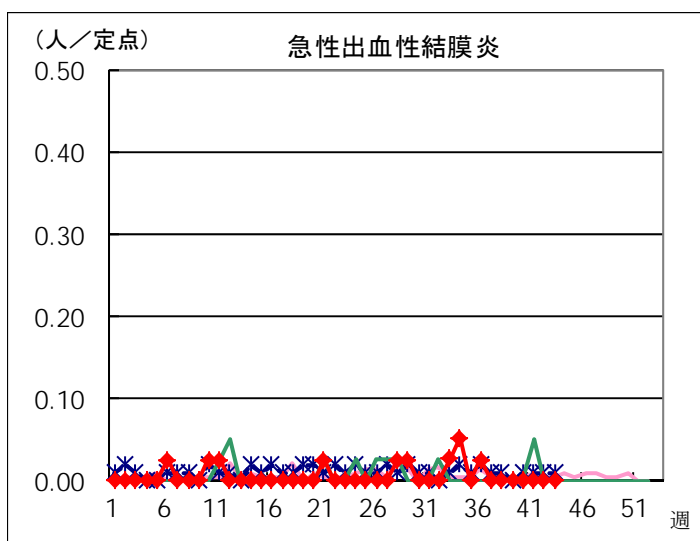


※ 東京都独自対象疾患

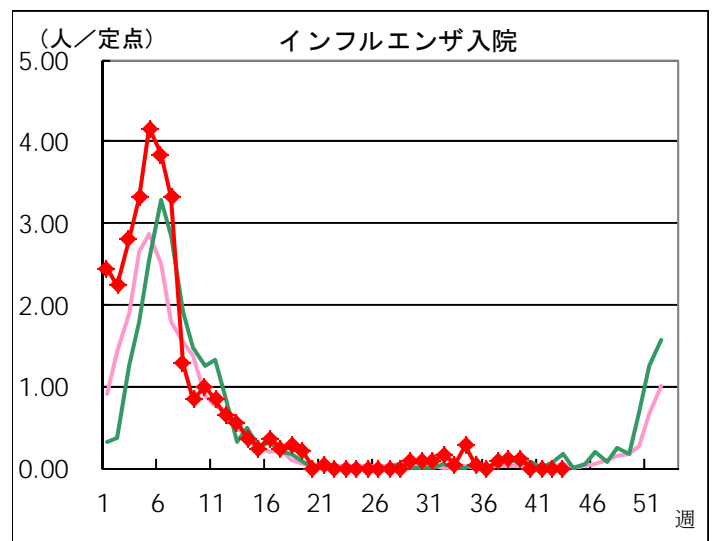
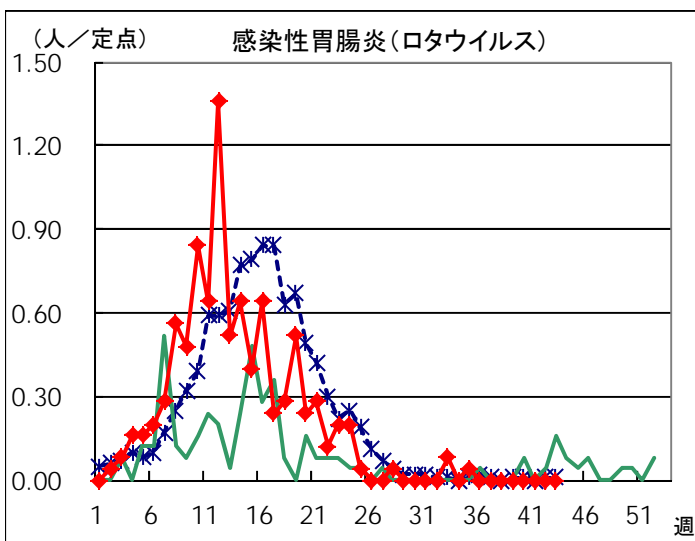
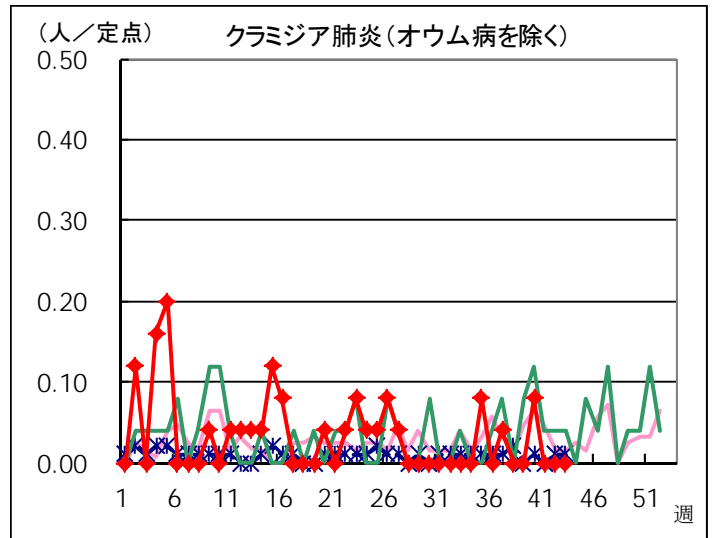
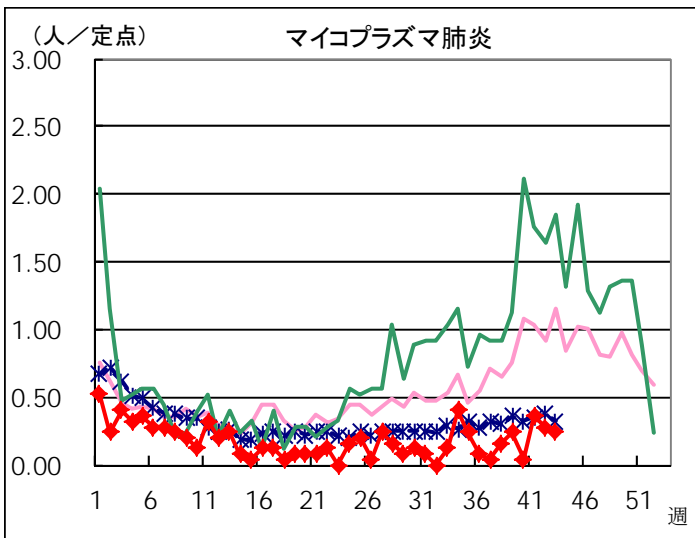
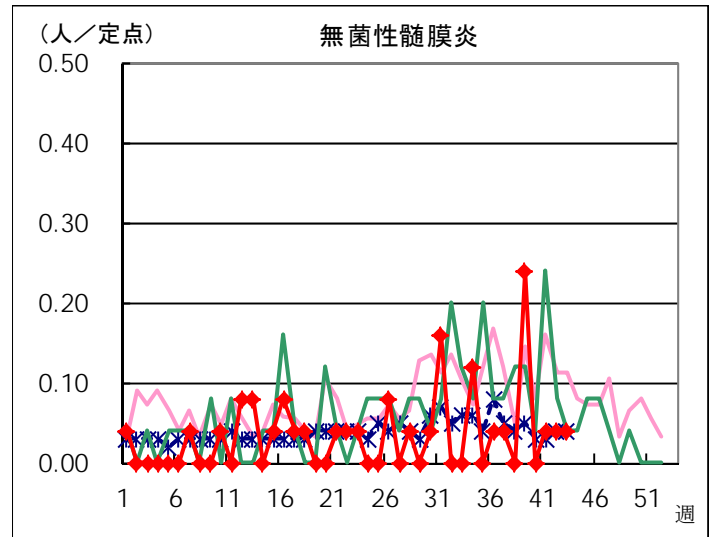
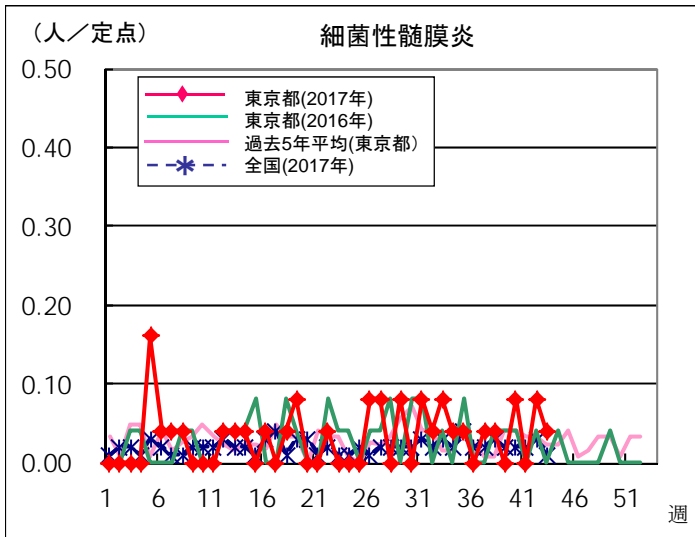
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
9/16	ヘルパンギーナ	9M	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
9/16	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
10/2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-1型
10/3	RSウイルス感染症	11M	咽頭拭い液	RSウイルスA型
10/3	伝染性紅斑	7	直腸拭い液	ヒトパルボウイルスB19
10/4	手足口病	4	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
10/4	不明発しん症	1	咽頭拭い液	風しんウイルス ヒトヘルペスウイルス6型
10/4	不明発しん症	2	咽頭拭い液	エコーウイルス9型
10/5	インフルエンザ様疾患	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス
10/5	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群16型
10/6	不明発しん症	1	咽頭拭い液	風しんウイルス ヒトヘルペスウイルス6型
10/7	不明発しん症	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型 エコーウイルス9型
10/10	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群16型
10/10	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
10/10	手足口病	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス71型
10/10	手足口病	4	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群16型
10/10	不明発しん症	1	咽頭拭い液	ライノウイルス ヒトヘルペスウイルス6型
10/11	手足口病	8	咽頭拭い液	エンテロウイルス71型
10/12	インフルエンザ様疾患	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

41週はインフルエンザウイルスが検出されませんでした。

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2017年41週				
2017-2018年 シーズン累計*	3		4	2

* 2017-2018年シーズンの開始は第36週(2017年9月4日～)

病原体検出情報【週別】

検出病原体	2017年							
	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週
アデノウイルス	1	1	2		3			
コクサッキーウイルスA群	3	7	9	3	2	4	1	7
コクサッキーウイルスB群			1					
エコーウイルス		2	3	2	1	1		2
エンテロウイルス71	2		1	2		1	1	2
その他のエンテロウイルス						1	1	2
ライノウイルス	1			2	2	2		1
ヒトメタニューモウイルス								
単純ヘルペスウイルス								
水痘・帯状疱疹ウイルス	1				1		2	
ヒトヘルペスウイルス6型・7型	2	2	5	3	1	1		4
EBウイルス	1							
サイトメガロウイルス								
ムンプスウイルス		1	1					
麻疹ウイルス								
麻疹A型(ワクチンタイプ)								
風疹ウイルス	1	1						2
ヒトパルボウイルスB19								1
RSウイルス	2	1	1	3	2	3	2	1
ノロウイルス			1			1		
ロタウイルス								
サポウイルス	1							
インフルエンザウイルスAH1亜型								
インフルエンザウイルスAH3亜型	2	1	1	1		1	1	
インフルエンザウイルスB型		1		1			1	
インフルエンザウイルスAH1pdm09	1	2	2	1				
その他のウイルス								
A群溶血性レンサ球菌T-1型				1				1
A群溶血性レンサ球菌T-3型								
A群溶血性レンサ球菌T-4型	1							
A群溶血性レンサ球菌T-12型				2				
A群溶血性レンサ球菌T-25型								
A群溶血性レンサ球菌T-28型								
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型				1				
A群溶血性レンサ球菌その他のT型				1				
A群溶血性レンサ球菌T型別不能								
百日咳菌								
肺炎マイコプラズマ								
肺炎クラミジア								
髄膜炎菌								
B群レンサ球菌								
肺炎球菌								
インフルエンザ菌								
黄色ブドウ球菌								
大腸菌								
その他の細菌								
その他の病原体								

病原体検出情報【臨床診断名別】

2017年34週～2017年41週

	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん 咳	百 日 咳	ヘル パ ン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	川 崎 病	不 明 発 し ん 症	イ ン フ ル エ ン ザ	イ ン フ ル エ ン ザ 様 疾 患	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細 菌 性 髄 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	ク ラ ミ ジ ア 肺 炎
搬入検体数	15	5	7	9	5	42	1	8		5	12	1	27	19	12		4	1	9		
アデノウイルス		3												1			3				
コクサッキーウイルスA群						30				3				3							
コクサッキーウイルスB群														1							
エコーウイルス	1					1		4						5							
エンテロウイルス71						9															
その他のエンテロウイルス															3				1		
ライノウイルス	1	1			1			1						4							
ヒトメタニューモウイルス																					
単純ヘルペスウイルス																					
水痘・帯状疱疹ウイルス					4																
ヒトヘルペスウイルス6型・7型		1				5		3						9							
EBウイルス											1										
サイトメガロウイルス																					
ムンプスウイルス											2										
麻疹ウイルス																					
麻疹A型(ワクチンタイプ)																					
風しんウイルス						1								3							
ヒトパルボウイルスB19								1													
RSウイルス	15																				
ノロウイルス				2																	
ロタウイルス																					
サボウイルス				1																	
インフルエンザウイルスAH1亜型																					
インフルエンザウイルスAH3亜型																					
インフルエンザウイルスB型																					
インフルエンザウイルスAH1pdm09																					
その他のウイルス																					
A群溶血性レンサ球菌T-1型			2																		
A群溶血性レンサ球菌T-3型																					
A群溶血性レンサ球菌T-4型			1																		
A群溶血性レンサ球菌T-12型																					
A群溶血性レンサ球菌T-25型																					
A群溶血性レンサ球菌T-28型																					
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型			1																		
A群溶血性レンサ球菌その他のT型			1																		
A群溶血性レンサ球菌T型別不能																					
百日咳菌																					
肺炎マイコプラズマ																					
肺炎クラミジア																					
髄膜炎菌																					
B群レンサ球菌																					
肺炎球菌																					
インフルエンザ菌																					
黄色ブドウ球菌																					
大腸菌																					
その他の細菌																					
その他の病原体																					

<感染症豆知識>

結核の集団感染

わが国の結核罹患率は順調に低下しているが、人口10万対14.4(以下2015年のデータ)と欧米先進国の5以下と比較すればきわめて高く、わが国は結核中蔓延国である。結核患者は都会に多く、東京都の結核罹患率は17.1であり高い方から3位である。わが国の結核患者の大部分は高齢者であり、70歳以上が58.9%、80歳以上が38.3%を占める。

このような状況下、結核の集団感染事例は全国で毎年50件前後報告されている。結核集団感染の定義は「同一の感染源が、2家族以上にまたがり、20人以上に結核を感染させた場合をいう。ただし、発病者1人は6人が感染したものととして感染者数を計算する」である。「感染」はツベルクリン反応やインターフェロング遊離試験(IGRA)が陽性で発病していない状態を指す。

集団感染は、結核を発病した患者の診断が遅れることにより起こる。発病から初診まで2ヵ月以上を要した場合、受診の遅れというが、全年齢有症状肺結核の20.0%を占め、30~59歳有症状喀痰塗抹陽性肺結核患者の37.1%を占める。この間に多数の人に感染させている可能性がある。また、初診から診断まで1ヵ月以上を要した場合、診断の遅れといい、全年齢有症状肺結核の21.5%を占め、これは院内感染を引き起こす要因となる。患者も医師も結核は過去の疾患ではないという認識が必要である。

近年、外国出生者の結核患者数が増加しており、全国新登録患者中6.4%を占めるようになり、東京都では11.1%と全国よりも多い。日本語学校での集団感染の報告が目立つため、結核蔓延国から留学や仕事のために入国する外国出生者に対する健診が重要である。

(文責 国立病院機構東京病院 呼吸器センター部長 永井英明)